

<研究代表者>

中村靖子：名古屋大学大学院人文学研究科教授



<専門分野>ドイツ文学・思想史

<Webページ> <https://a3hsn.org>

<研究目的・概要>

近代以来の人間観、社会制度、自然との関係のひずみが露呈し、他者との分断や対立が顕在化。



・現象を、アクター(行為者：人間、動物、自然、人工物)の相互作用として理解。

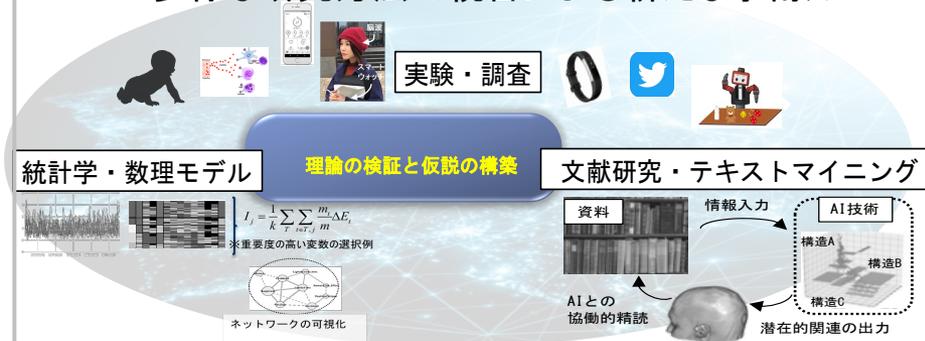
・アクターである人間の内部構造として、言語やセクシュアリティに規定されたハビトウス(習慣)という観点を導入し、認知科学や数理モデルを参照しつつ、人間と非人間のネットワークが作動する原理を考察。



破壊、災害、感染症、戦争、社会格差、性差別、などの現代的問題がなぜ生じるのかを、人類の歴史という視座から考察し、それらの問題にどう対処すべきかについて処方箋を提出する。

<研究計画の特徴>

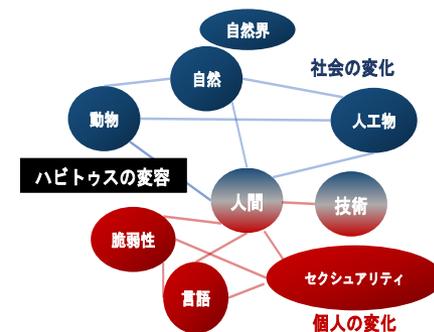
多様な研究方法の統合による新たな学術知



<目標とする研究成果>

(1) 言語、技術、自然、と共に展開した人類の歴史に通底する原理を解明する。

(2) 人文学に自然科学の手法を導入し、アクターネットワーク理論とハビトウス論の精緻化により、人間・社会・自然の未来の姿を構想



<将来展望>

未来社会の価値として「他者と自然との柔らかな均衡」を提唱し、それを実証する学術知を確立する。